

お釈迦様の誕生を祝う

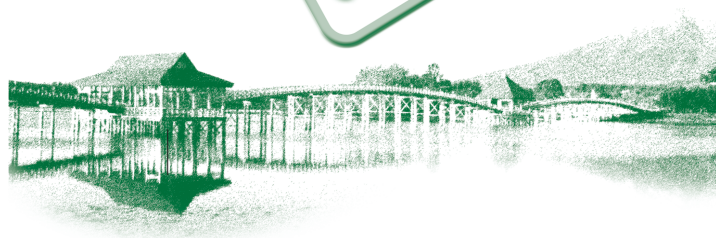
6月1日(土)、ひなづる幼稚園(三上良淳園長)で創立65周年を迎えることを記念して、お釈迦様の誕生を祝う花まつりと稚児行列が行われ、在園児と卒園児あわせて41人が参加しました。

同園の花まつりは、子どもたちにお釈迦様への親しみをもち、園生活への楽しさと明るさを味わってもらおうと開催しています。

子どもたちは、お釈迦様誕生の際に天から甘露の雨が降ったという言い伝えに基づき、一人ずつお釈迦様の仏像に甘茶をかける『灌仏^{かんぶつ}』を行ったあと、きらびやかな稚児装束に身を包み、お父さんやお母さんと手を繋ぎながら町内を練り歩き、かわいらしい姿を披露していました。



△きらびやかな稚児装束に身を包む園児たち



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班(内線262)までお知らせください。

児童らリンゴの実すぐりに挑戦

6月4日(火)、水元中央小学校(石田隆浩校長)の5年生7名が、5月10日(金)に行った授粉体験に続き、加賀谷 金一さんの園地(廻堰大沢地区)でリンゴの実すぐり体験をしました。

子どもの身長でも届くように選定されたジョナゴールドの木の下で、講師である加賀谷さんの指導の下、中心花以外の幼果を丁寧に取り除いていました。

実すぐり体験をした児童は、「最初は実を取るのがうまくできなかったけど、友だちに手伝ってもらって上手にできるようになりました」と笑顔で話していました。児童たちは今後も袋掛けなどを体験し、農業に理解を深めていく予定です。



△夢中になって実すぐりを行う児童

交通事故再発防止へ

6月14日（金）、6月初旬に交通死亡事故が発生した交差点の道路交通診断を行いました。五所川原警察署（小坂一男署長）署員、相川町長、五所川原地区交通安全協会会員、鶴田地区交通指導隊員ら約20人が現場を確認し、問題点や改善案など出し合っていました。事故後、一時停止の標識をより見えやすい位置に移設し、7月中には新たに停止線と「止まれ」の文字を入れる予定になっています。

小坂五所川原警察署長は「二度とこの場所で交通事故が起こらないように整備していく。また、その他の整備が必要な道路がある場合は警察が役所に相談してほしい」と話していました。



△事故現場の交差点を点検する参加者たち



△毎年人気のカボチャを買い求める買い物客

全国各地の特産品がずらり

6月15日（土）、16日（日）の2日間、道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」で、開業18周年を記念する「鹿児島県さつま町フェア&全国道の駅フェア」を開催し、町が友好交流協定を結ぶさつま町や、あるじゃが交流を持つ全国各地から19の道の駅の特産品が並びました。

さつま町のブースでは、毎年の周年祭で大人気のカボチャやさつま揚げを求める買い物客でにぎわっていました。また、来場者にはスチューベン大福が配布されたほか、鶴田町太鼓の会による演奏やマグロの解体即売会が行われ、2日間で約4万人が訪れました。

一足早く友達づくり

来年度の管内小学校統合を迎えるにあたり6月18日（火）、鶴田小学校体育館で6小学校の1・2年生179名が児童交流を行いました。

はじめに各小学校の児童たちが壇上で、自分の学校の特徴やアピールポイントを発表し、お互いの小学校の良さを教え合っていました。その後、統合後の鶴田小学校の校歌を児童全員で歌い上げ、初めて一緒に歌ったとは思えないほど息が合っていました。そのほか、レクリエーションを行い、早速新しい友だちを作っていました。

参加した児童は「小学校がなくなるのは悲しいけど、新しい友だちがたくさんできるのは楽しみです」と話していました。



△みんな仲良く笑顔でレクリエーションを楽しむ児童たち